

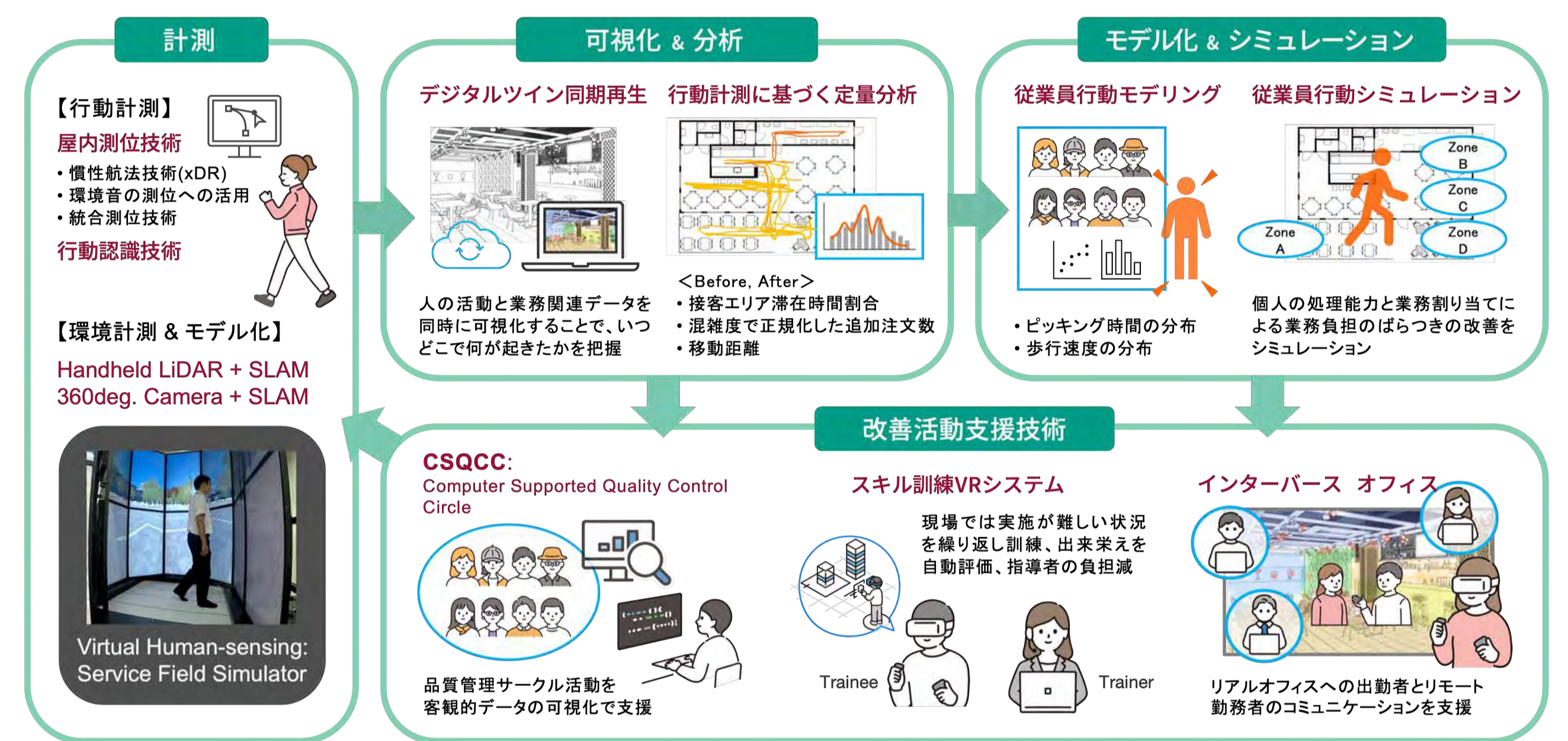
「はたらく」を支える技術とインターバースの研究開発

R&D for smart work technologies and interverse

- ▶ 「はたらく」活動を支援する技術でQoWの向上、well-beingに貢献
- ▶ 計測・可視化・モデル化・シミュレーションの技術群による支援
- ▶ リアル空間とバーチャル空間の融合技術でコミュニケーションを支援

研究のねらい

産業技術総合研究所では人が「はたらく」活動を支援する技術の研究開発を実施しています。計測技術により人の活動をデータとして記録し、統計解析、空間情報と組み合わせた可視化を行うことで、課題の発見や改善活動の評価を可能にします。また、新しいインターネットの活用方法であるメタバースを社会と融合することで、社会を支える重要な人間の活動であるコミュニケーションを拡張するインターバース技術を実現します。



「はたらく」を支える技術群

インターバースの実現と社会実装



SIP第3期「バーチャルエコノミー拡大に向けた基盤技術・ルールの整備」に2つのテーマが採択

- コミュニケーションを拡張するインターバース技術の研究開発
 - ユニバース（リアル世界）とメタバース（バーチャル世界）を融合する様々なコミュニケーション支援技術を実装・評価・実証
- 地域活性化のためのグローバルインターバース基盤の研究開発
 - ロボット操作による遠隔就労を行うメタワーク基盤を用いた未来の遠隔労働環境における生産性やスキル、QoWの分析に関して研究開発

VR技術をスキルトレーニングに活用

実環境では訓練実施が難しい業務をVR環境で効率的にトレーニング

■ 接客訓練VR

- 実店舗では訓練の難しい「気づき」「優先順位判断」をVR店舗で繰り返しトレーニング可能
- 顧客の行動（注文を決める時間・食事をする時間・食事後に席で過ごす時間など）は実店舗で計測してモデル化したものを使用

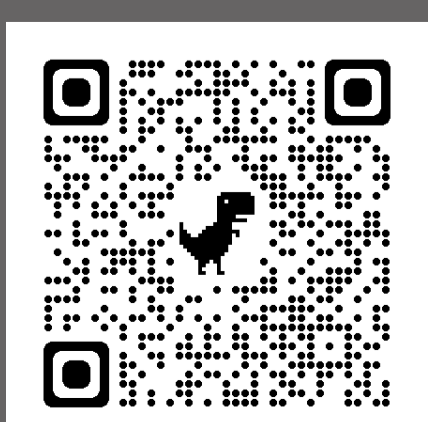
■ 建機（油圧ショベル）操作訓練VR

- 操作方法が難しく、習熟に時間が必要な油圧ショベルの操作の訓練をVR空間で実現
- 操作の習熟を支援する視覚フィードバックのデザインやお手本との比較による定量評価



- 繰り返しのトレーニング、客観的振り返り、定量評価が可能
- 指導者の付添いが不要、負担減

事例) スキルトレーニングVRシステム



人間拡張研究センター・スマートワークIoH研究チーム
一刈 良介
連絡先: harc-liaison-ml@aist.go.jp



ともに挑む。つぎを創る。